

米中貿易摩擦の中国木材輸出への影響と日本への余波

主事研究員 安藤範親

1 米中貿易摩擦が木材貿易に与える影響

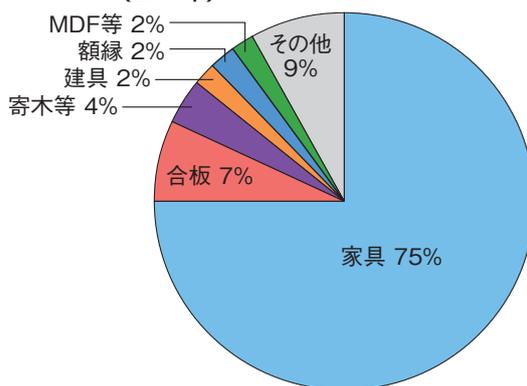
米国のトランプ政権は、中国との貿易不均衡問題等を理由に、2018年7月に中国から輸入される818品目に対して第1弾の制裁関税を発動した。中国も同規模の報復関税を発動した。両国は、第2弾(18年8月)、第3弾(18年9月)、第4弾(19年9月・12月の2回に分けて発動)と4段階にわたり関税を引き上げている。第4弾の発動により双方からのほぼ全輸入品に制裁・報復関税が課されることになった。

木材関連品目については、第3弾より中国からの輸入品に対する関税引き上げの対象品目に含まれており、18年9月に10%、19年5月には25%となった。なお、19年12月以降は30%となる予定である。

中国の木材関連品目の輸出額(18年421億米ドル)の国別内訳は、米国が第1位(37%)、日本が第2位(6%)、英国が第3位(5%)である。米国の割合が最も高く、輸出先のなかでも極めて重要な位置を占める。また、米国向け木材関連品目の輸出の内訳は、家具が75%と大半を占めており(第1図)、制裁関税は特に家具業界への影響が大きい。

19年9月に重慶市で開催された第9回中国世界木材貿易大会における中国木材・木製品流通協会の朱光前首席専門家の報告によると、木製家具類の輸出額は、19年上期(1月～6月)に99億米ドル(前期比9%減)で、そのうち米国への輸出は38億米ドル(同18%減)であった(第1表)。輸出先に占める米国の割合は、43%から38%へと減少している。同氏は、対

第1図 中国の米国向け木材関連品目の内訳(2018年)



資料 Global Trade Atlas
(注) 小数点以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない。

第1表 中国における輸出先別にみた木製家具類輸出額

(単位 億米ドル、%)

地域	2019年上期	割合	2018年上期	割合	成長率
米国	38.060	38	46.413	43	-18
アジア	21.323	22	22.167	20	-4
欧州	18.763	19	18.162	17	3
日本	6.087	6	6.335	6	-4
米州	5.544	6	6.038	6	-8
豪州	5.310	5	5.733	5	-7
アフリカ	3.879	4	3.620	3	7
合計	98.966	100	108.468	100	-9

資料 朱光前氏の報告資料「China's Timber Market Supply - Demand and Trend of Timber Import」から筆者作成
(注) 米州は、米国を除く南北アメリカ。

米輸出減少の主な理由に制裁関税を挙げており、この傾向は19年下期も続くと推測している。

2 中国は輸出先を多角化へ

木製家具類のように輸出先が偏っていると、その減少分を他で補うことは難しい。商品の仕様や色の好みなどは国々で異なるため、単純な輸出先の変更は非常に困難である。

これまで木製家具類を含む中国の木材関連品の輸出は米国に重点を置いていたが、状況が変わったことで中国の木材関連業界は米国以外の市場を開拓し始めた。陸路と海路で中国と各大陸を結ぶ「一带一路」政策により、道路や鉄道、港湾の整備が進められており、欧州やアフリカ、東南アジア市場などへのアクセスが改善され始めている。例えば、中国と欧州を結ぶ国際定期貨物列車の「中欧班列 (China Railway Express)」によって、丸太や一次加工の製材品を欧州から輸入し、それを家具やインテリア商品として輸出する加工貿易が進展しつつある。第1表を見ると、額は小さいものの欧州やアフリカ向けの輸出が拡大していることがわかる。

米中貿易摩擦は、短期的には対米輸出の縮小による木材関連業界への影響が大きいものの、長期的には中国の木材輸出の米国依存度を下げ、輸出先の多角化へとつながる可能性がある。米中貿易摩擦が「一带一路」政策での貿易活発化の起爆剤として作用するのではないだろうか。

3 中国向け丸太輸出に黄信号

わが国の木材関連品目の輸出額(18年414億円)の国別内訳は、中国が第1位(41%)であり、輸出先のなかでも極めて重要な位置を占める。また、中国向け木材関連品目の輸出の内訳は、丸太が68%を占める。

中国向けの丸太輸出額(18年115億円)の過去5年間の年平均成長率は32%と伸長傾向にある。しかしながら、19年夏以降は輸出の伸びに歯止めがかかりそうだ。

中国向けスギ丸太の輸出価格の推移を見ると、19年4月の13,000円/m³から同年8月には11,000円/m³に値下がりしている(第2図)。8月の輸出価格(FOB、本船渡し値段)から輸出通

第2図 日本の中国向けスギ丸太輸出価格の推移



資料 財務省「貿易統計」

関費や船積費、消毒費などを除くと、港におけるスギ丸太の価格は9,000円/m³程度となる。この価格は、地域によっては木質バイオマス発電所向けの丸太価格と競合する。例えば最も輸出量の多い鹿児島県では、既に輸出向け丸太の供給が減少し、不定期船の寄港回数も細り始めている。

わが国から輸出される中国向け丸太は主に針葉樹のスギである。スギ丸太は梱包やパレットなどの産業用資材のほか足場板・敷板、杭などの土木用資材として使われるだけでなく、米国向けにフェンス材として加工されている。

米中貿易摩擦による中国の対米輸出不振の結果、多様な製品を運ぶための梱包資材やパレットなどの利用が減少したことで、その原料となるわが国のスギ丸太の輸出に影響を与えている。

また、フェンス材についても中国から米国への輸出の減少がわが国に影響を及ぼしている。ただし、フェンス材については、中国企業が制裁関税を回避するために、ベトナムへと生産を移行する動きが出ており、鹿児島から中国へ向かっていた丸太はベトナムへと輸出され始めている。今後、こうした貿易環境の変化からわが国の丸太の輸出先として、ベトナムの存在感が高まる可能性がある。

(あんどう のりちか)